

科 目		必・選	担 当 教 員		学 年 ・ 学 科			単位数	授 業 形 態				
環境と社会 Environment and Society		必	重松正史		1年生 環境都市工学科			1	半期 週2時間				
授業概要		今や環境破壊が地球的規模で発生し、人類の生存に関わる深刻な問題になっている。この事態についての基本的知識を確認し、科学技術発展と環境問題の関連、人間の欲望増大と環境問題の関連を考察する。											
到達目標		1「環境」が現代社会の基本問題であることを説明できる。 2科学技術発展と環境問題の関連についての基本的な説明ができる。 3環境問題と地域の関連について具体的に説明できる。											
評価方法		2回の定期試験70%、授業中の課題（提出物）30%											
教科書等		毎回プリントを配付											
内 容										学習・教育目標			
第 1 週													
第 2 週													
第 3 週													
第 4 週													
第 5 週													
第 6 週													
第 7 週													
第 8 週													
第 9 週													
第10週													
第11週													
第12週													
第13週													
第14週													
第15週													
第16週		環境問題を授業で取り上げる理由、環境問題の概観								A			
第17週		地球温暖化について 温暖化進行の現状、温暖化と異常気象								A			
第18週		IPCCによる将来の温暖化用								A			
第19週		温暖化防止対策と京都議定書								A			
第20週		温暖化防止へのヨーロッパ諸国の取り組み								A			
第21週		温暖化防止と街作り								A			
第22週		温暖化防止と自動車革命								A			
第23週		温暖化防止と科学技術								A			
第24週		都市と廃棄物問題 ニューヨークの廃棄物問題								A			
第25週		発展途上国における廃棄物問題								A			
第26週		自動車廃棄の現状、島問題								A			
第27週		身の回りの廃棄物（高専周辺の廃棄物）								A			
第28週		大量生産大量消費社会 大量生産大量消費社会の成立								A			
第29週		アメリカの大量消費社会								A			
第30週		豊かさの見直し								A			
（特記事項）			JABEEとの関連										
			JABEE	a	b	c	d1	d2a)d)	d2b)c)	e	f	g	h
			本校の学習 ・教育目標	A	A	C	C	C	B	B	D	C	B

1. 合格ラインについて、特に記載の無いものは、60点以上を合格とします。

2. 定期試験について、特に記載の無いものは、評価配分を均等とします。（【例】年4回定期試験実施した場合の各定期試験の評価配分は、特に記載の無いものは、25%ずつになります。）

ガイドンス

第16週

- ・ 環境問題についての基礎知識を確認する
- ・ 様々な環境問題について、その広がりを概観する
- ・ 環境問題への対処が必要不可欠であることを確認する。

第17～23週

- ・ 温暖化が最大の環境問題であることを知る。
- ・ 地球温暖化が、世界各地で具体的にどのように現れているのかを知る。
- ・ IPCCによる将来予測を知る。
- ・ 気象災害と温暖化の関連について、現在言われていることを知る。
- ・ 人間が使ってきたエネルギーの変遷を具体的に跡付ける。
- ・ 京都議定書など、温暖化防止のための取組について具体的に知る。
- ・ 温暖化へ対処するのに、先進国と開発途上国、アメリカとヨーロッパなどに取組への温度差があることを知る。
- ・ 温暖化防止のためにどのような科学技術が用いられているかを知る。

第24週～第27週

- ・ 都市の廃棄物の種類について知り、廃棄物問題の重要性を知る。
- ・ とくに自動車について、中古車市場（リサイクル）の状況や廃棄の実態を知る。
- ・ リサイクル法が相次いで成立していることを知り、廃棄物行政の重要性を認識する。産廃処分場のあり方などについても知る。
- ・ 天候が許せば、高専周辺の廃棄物の実態について、簡単な調査を実施する。

第28週～第30週

- ・ 20世紀の工業発達の歴史を簡単にふり返し、大量生産・大量消費社会の成立について知る。
- ・ 大量生産・大量消費社会では、人々の欲望も増大し続けてきたことを知る。
- ・ 対象生産・大量消費を支えてきた人々の価値観について考える。
- ・ 「豊かさ」を問い直そうとする様々な動きについて、アメリカ社会とヨーロッパ社会を対比しながら考える。
- ・ 経済と環境の両立はいかに可能化について、具体例をあげながら考える。